最近の支那に於ける道路開發事情（二）

——國際聯盟對支技術援助に關するライヒマン報告書——

國際聯盟事務局東京支局

九、自動車に必要なる燃料問題も亦重要な問題である。國內產の石油は未だ商業上採算の採れるまでに至つてゐない。海港に於ける輸入石油の價格は七十仙である。これが米國太平洋岸に於ては生產費も込めて六十仙である。一九二八年より一九三三年に至る五ケ年間の總輸入高は一億四千三百五十一萬九千ガロン（米國）であつた。支那の奧地に於ては、入手し得る數字より見るに、西北地方の潼關に於ては一弗二十仙に騰貴し、凉州に於ては六弗にまで上つてゐる。從つて機械油も含めた費用になると住民の經濟的標準に對比して非常に過重なものになる。

これに反して、石炭は海岸地方にしろ、奧地にしろ、各省至る處に於て豐富に得られる。從つて、石炭より液體並に氣體燃料を搾出することに注意が拂はれてゐる。國內にて採掘せる石炭の各種類を使用するに際し、果して商業上引き合ふものなりや否やに就き目下試驗中である。地質調査所の燃料問題研究の爲め一九三四年度全國經濟委員會豫算中總額十萬弗の金がその用途に當てられてゐる。

（第一表）七省に於ける中央政府補助道路の輸送現狀

——全國經濟委員會、道路局調査——

道路區域	旅客用バス		貨物輸送用バス		平均月收入	
	バス數	一日の運轉度數	料金	一日の運轉度數	噸當り料金	旅客運賃	管理摘要
江蘇省							
南京—福建							
南京—浙江	三〇	—	〇・〇三五弗	—	弗	— 弗	— 弗	— 會社	—

上海—閩行	一〇	—	—	—	—	會社	—
上海—廣西 閩行—浙江	九	三三	〇・〇三三	—	—	政府	—
鎭江—沭陽 鎭江—揚州	二五	三三	〇・〇四二	—	—	會社	—
蘇州—江蔭 無錫—江蔭	一四	一八	〇・〇三五	—	—	會社	—
南通—贛榆 新安鎭—板浦	八	三三	〇・〇四八	〇・一七	—	會社	—
上海—柳河 嘉定—羅田	三四	一〇	〇・〇三五 〇・〇三五	—	二〇、〇〇〇	會社	本線は中央政府の助成金により建設せられた道路に屬せず 本線は中央政府の助成金により建設せられた道路に屬せず
鎭江—句容	三	八	〇・〇三〇	—	四、〇〇〇	政府	
合計	一三三	—	—	—	四七、〇〇〇	—	

浙江省

杭州—長興	一八	一九	〇・〇二六	—	三三、〇二一	政府	—
南京—福建 拱宸橋—三郎廟	一六	四五	〇・〇三四	—	一六、三〇六	政府	—
南京—福建 蕭山—紹興	四〇	二八	〇・〇二五	—	四七、三一〇	會社	—
南京—福建 紹興—曹娥—嵊縣	二一	—	〇・〇三〇	—	—	會社	バス會社の建設にかゝる
上海—廣西 杭州—平湖	一五	二一	〇・〇二六	—	六、六二一	政府	—
上海—廣西 衢縣—蘭谿	一〇	—	〇・〇三〇	—	—	會社	—
杭州—徽州 杭州—餘杭	三	一〇	〇・〇三四	—	—	政府	以前はバス會社の經營にかゝる
杭州—徽州 餘杭—臨安	二一	一〇	〇・〇三四	—	—	會社	—
杭州—徽州 臨安—昌化	五	六	〇・〇二八	—	三、二三九	政府	—

衢縣—常山	—	五	—	〇・〇三〇	—	—	—
寧波—奉化	—	一八	四〇・〇〇三五	—	—	—	會社
合計	—	一七二	—	—	—	—	會社（本線は中央政府の助成金により建設せられた道路に屬せず）

安徽省

南京—四川 合肥—高河埠	—	六	〇・〇四〇	—	—	—	政府
南京—四川 高河埠—潛山	一三	二	〇・〇四〇	三	〇・二五—〇・三六	五、五〇〇	三〇 政府
高邱—祁門 高河埠—安慶	—	六	〇・〇四〇	—	—	—	政府
南京—陝西集縣—合肥 店埠—睢寧 梁園—店埠	九	四 八	〇・〇四〇 〇・〇四〇	三	右に同じ	四、一〇〇	五〇 政府
合計	—	三	—	—	—	九、六〇〇	—

江西省

開封—廣東 南昌—朱山橋	二三	直通地方的三六 八	〇・〇三六	—	—	一、六〇〇	政府
開封—廣東 朱山橋—吉安	三	直通 一四	〇・〇三六	—	右に同じ	一、五〇〇	政府
南京—歸州 黃金埠—南昌	六	直通 八	〇・〇三六	—	右に同じ	六、五〇〇	政府
南京—歸州 南昌—上高	三	直通地方的一六 八	〇・〇三六	—	右に同じ	三、〇〇〇	政府
上海—江西 臨川—上頓渡	一	直通 八	〇・〇三六	—	右に同じ	—	政府
上海—江西 永豐—八都	一	直通 六	〇・〇三六	—	右に同じ	—	政府
上海—江西 吉安—安福	三	直通 六	〇・〇三六	—	右に同じ	二、〇〇〇	政府
南昌—南豐 南昌—臨川	二六	直通地方的三〇 八	〇・〇三六	—	右に同じ	一八、〇〇〇	政府

臨川—南豐	一四	直通地方的	一三	〇・〇三六	—	右に同じ	一〇、〇〇〇	—	政府	—
合計	—		八九		—		五三、六〇〇	—	—	—
湖北省										
南京—四川 漢口—沙洋	一〇	直通	二	〇・〇三四	二	〇・四五—〇・二〇	六、六〇〇	二、一〇〇	政府	—
洛陽—韶州 襄陽—沙市	八	直通	二	〇・〇四〇	二	〇・五六—〇・三二	七、〇〇〇	七〇〇	政府	—
花園—樊城 全線	二五	不定	一五	〇・〇四〇	一五	〇・五六—〇・三二	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	政府	—
漢口—麻城 全線	八	直通	二	〇・〇三四	三	〇・四五—〇・二〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	政府	—
合計	—		五一		—		三九、六〇〇	—	—	—
湖南省										
南京—歸州 長沙—永安市—高橋	二	直通地方的	一〇	〇・〇二七八	—		一三、六五七	—	政府	—
湘潭—邵陽	二四	直通地方的	一九	〇・〇三六五四	二七	〇・二九三六	四三、一〇七	三八、九五三	政府	—
長沙—常德	一九	直通地方的	一三	〇・〇三五	二三	〇・二九三六	一九、五三二	五〇一	政府	—
洛陽—韶州 長沙—衡陽	四八	直通地方的	二五	〇・〇九八	一一	〇・二九二六	四〇、〇三一	六八九	政府	—
衡陽—宜章	二〇	直通地方的	一六	〇・〇三三一	三	〇・二九二六	二〇、八一〇	八、四五二	政府	—
上海—江西 醴陵—茶陵	一七	直通地方的	一二	〇・〇九一	一〇	—	二二、三二四	—	政府	中央政府の助成金により建設せられた道路に屬せず
常德—酉陽 常德—桃源	八	直通地方的	一三	〇・〇九二	—	—	七、八六四	—	政府	中央政府の助成金により建設せられた道路に屬せず
合計	—		一四七		—	—	一五七、三一五	—	—	—
河南省										

開封—廣東	開封—項城	六	直通	四	〇・四〇	—	三、五〇〇	政府
南京—陝西	潢川—信陽	八	地方的	二	〇・五〇	—	五、〇〇〇	軍部支配
潢川—經扶縣	潢川—潑玻河	四		—	〇・五〇	—	二、〇〇〇	軍部支配
臨汝—大和	禹縣—周家口	三	直通	六	〇・四〇	—	二、〇〇〇	政府
開封—曹州	—	六	地方的	六	〇・四〇	—	八、〇〇〇	政府
南京—周家口	南陽—鹿邑	一八	直通	二四	〇・四〇	—	一〇、〇〇〇	政府
准陽—亳縣			地方的	一八	〇・四〇	—	四〇、五〇〇	—
合計	—	五四		—	—	—	—	—
總計	—	六七		—	—	四六三、四一九	—	—

次表は浙江省に於けるバス運轉の營業收入並に營業費に關する明細表である。

(1) 乘車賃　一人、一粁に就き二十五仙乃至二十八仙
(2) バス收容人員　一臺に就き十七人乃至二十六人
(3) 營業收入　バス一臺、一粁に就き二十八仙
(4) 營業費　バス一臺、一粁に就き二十二仙、その內譯項目は次の如し

一般諸掛……七・〇%
バス及び駐車場費……三五・〇%
石油……三一・〇%
機械油……三・五%
タイヤ及びチューブ……一〇・五%
車體維持費及び修繕費……八・五%
車體原價償却……一・五%
道路維持費……四・〇%
賞與……三・五%
總計……一〇〇・〇%

十、自動車に依る輸送費の問題が支那に於ける自動車利用增加の決定要因を爲してゐる。尙ほ又、車體の基準化、凡ゆる種類の機關(エンヂン)の實驗の必要なることも明白である。この凡ゆる種類の自動車機關(エンヂン)を實驗し

て見ることはこの國に最も適した型を發見出來る得點がある。

種々考慮を要すべき點がある。その一つは異つた種類の自動車には夫々異つた道路の型を要することである。建設された道路の大部分は脆質道路である。その中の若干は、特に北部地方に於けるものは舊式の二輪輕馬車の車輪で容易に破損される。然し、現在では幸ひにも自動車以外には凡て道路の使用を禁ずると云ふ傾向が生じて來た。重量トラックに適した道路を建設するには相當の經費を要し、多額の維持費を要する。これら種々の點に鑑み、二三の省、例へば南方地方の一省で夙に道路建設に着手せる廣西省は鐵道が最初に建設されなかつたことを遺憾とし　輸送事業を刺戟する爲め道路上に四輪大馬車を走らせる可能性を愼重に考慮した。然し、今では馬車の數は非常に減少し、急速度に廢頽しつゝある。馬を容易に得られる西北地方の省をも含めた或省では馬車の必要を强調してゐる。

道路局一九三四年度計畫中に、機械的に推進する乘物、荷馬車、並に人力に依り牽引する乘物に機械を可能な範圍で裝置せる乘物等の型に就いての研究が含まれてゐる。

十一、全國經濟委員會の一九三四年度道路建設計畫は次の如くである。

前記の七省大道路計畫は繼續される筈である。本年度計畫の道路建設事業に從へば、自動車道路約四千八百粁は各省間の大道路系統に編入されることにならう。又、この道路系統を他の各省に擴張すべく着手される筈である。その爲めに一九三四年度中に六百九十一粁の大道路を建設する樣提案された。西北地方の復興計畫に關聯して山西、甘肅の兩省に於ても亦道路が建設されるであらう。この中の一つが蘭州—肅州路中の蘭州—古浪區間であり、他の一つが西安—漢中間の線路である。西安—蘭州間の大道路改修工事の完成も亦提案されてゐる。この大道路の一般的重要性に鑑み、全國經濟委員會は西安、蘭州間にバスを運轉せしめることに就き陝西　甘肅の兩省と取極めを行つた。而して豫算中にこの目的の爲めの經費を準備した。陝西省の首

都西安並に甘肅省の首都蘭州より擴つてゐるこの道路は中部支那と中央アジア及びその先の人口多き地帶とを連結する歴史的大道路の重要なる區間を爲すものである。西方の諸國と交易せん爲め小アジアに向つて出發せる絹紬賣の隊商はこの道路に沿つたものである。

此省の狀態が非常に衰微せる爲め此場合全國經濟委員會が通例に外れて道路建設費の四〇％を貸與すべきこと並に凡ての費用を委員會自身で負擔すべきことが提案された。

全國經濟委員會は道路維持に關し一省の首腦官吏を任命するに當つてはその省政府と協力すべき樣希望された。全國經濟委員會はこれ等官吏の俸給の一部を支拂ふことに同意し、從つて豫算中にその爲めの經費計上方を提案した。湖南省及び江西省の各省間大道路建設に關する監督事務所も亦全國經濟委員會が維持することになつてゐる。

鐵道擴張計畫に就いては中央アジアの鐵道系統に連結する爲めに、而してそれに依りヨーロツパと連絡する爲めに隴海鐵路の延長が稍遠い將來に考慮されてゐる。然しながら中間の杜絶距離が數千哩に達してゐる。鐵道に依る連絡が終極的完成を爲す遙か前に自動車が運轉することは疑ひない。

一九三二年一月以來、道路局は技術的事業に關しては國際聯盟交通通過機關の代表たるワルソーの公共事業省の顧問であるオケツキ氏(M. M. S. Okecki)の協力を得た。

十二、 一九三四年度に於ける聯盟交通通過機關の協力問題は道路局が提起せる主要問題の研究にありとされてゐるこの研究の重要性は既に前に記述した處である。これには(イ)選擇されたる地域に最もよく適合する道路の形式、(ロ)道路使用の方法、(ハ)燃料供給問題、(ニ)車輛及び機關の型等の問題が含まれてゐる。技術上の關係書類は國際道路會議に出席する支那代表部が持參する筈である。この支那代表部の委員は專門家委員會の委員達又は交通通過機關が招請せる個人としての專門家達と共に目下調査中の二三の問題を審議するであらう。この種の研究の結果は、若し協議の結果今秋中に國際的經驗を有する斯かる專門家の

支那訪問を招請することが望ましいと判明すれば、夫等の專門家を支那に派遣する段取りになるのである。

他方、交通通過部は前記の一般的問題から生じ來る二三の問題、特に燃料及びエンジン(機關)の問題に關し、その研究を目的として特に委任され來る支那人技師の實驗的研究の爲めに諸種の專門團體と共に便宜を與へ又設備を爲す樣要請を受ける筈である。

(第二表) 一九三三年一月一日現在支那自動車狀勢

上海 米國商務省商務官ヴイオラ氏(Mr. A. Viola)の作成にかゝる。

地方	乘客用 一九三三年	乘客用 一九三二年	バス 一九三三年	バス 一九三二年	トラック 一九三三年	トラック 一九三二年	自動自轉車 一九三三年	自動自轉車 一九三二年	合計 一九三三年	合計 一九三二年
安徽省	一	二五	一	六五	一	五〇	一	無	一	一四〇
安慶、潛山	一	一	一	二	一	五	一	無	一	二八
桐城、太湖	一	一	一	一	一	一	一	無	一	一〇
亳州及びその附近	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
蕪湖、寧國、大信、	二	一	一〇	一	無	一	無	一	三	一
宿縣、靈壁縣、及び泗縣	一	一	一	六	一	無	無	一	六	一
盧州	八	一	一	二〇	一	二〇	二	一	四〇	一
舒城	一	一	一	無	一	一〇	一	一	二	一
察哈爾省	七	一	三	一	一	八一	一	一	二〇	一
多倫諾爾	一	六	一	四	一	一	一	一	一	二
宣化	一	四	一	一	一	一	一	一	一	四

張家口	一	八	一	五九	一	一	一	一	六七
浙江省	二四〇	二二六	三三〇	三四九	七〇	一〇三	一七	五〇	六四七
福建省									七一七
厦門市	四〇	五二	一四	一四	三五	三六	一一	六	一〇〇
厦門の外廓	一	九八	二八七	二四七	一	五八	一	四	二八七
福州市	六三	一	三七	一	六	一	一	一	一〇六
福州市の外廓	一八	七六	二八八	三二〇	六	四	一五	一五	三二七
香港	二、三〇五	二、〇八六	一七五	一七〇	六五六	五九〇	三三四	四一五	三、四七〇
河南省	四〇	一七	一一三	四五	一一	一〇九	一	一〇一	一六四
河北省									
保定及びその他	二八	一九	六一	六	四〇	一	二	一	一三一
北平市	一、八〇八	一、四一五	八七	五〇	三九	五五	四七	一五	一、九八一
北平市外	一	三〇〇	一	一〇	一	一	一	五	一
天津市	一、七〇〇	一、七四〇	一〇〇	一〇〇	七〇	七五	一一〇	一一五	一、九九〇
湖南省	四	三	二八五	一四二	七	三三	三	四	二九九
湖北省									
漢口市	五五二	四一五	一	一八一	二一〇	二一〇	一四	一〇	六八六
他の地方	一八	一	一二六	一	四	一	一	一	二三九
熱河省	一三	三〇	八	二一〇	四五	一〇〇	一	一	六五
甘肅省	七	一〇	一五	四〇	一七	バス中に包含さる	一	一	三九

									五一
									二五〇

江西省	三六	三	三二	八二	三九	二	三	一	一九九	一〇四
江蘇省										
北部江蘇	一	一、〇〇〇	一	六五	一	五五〇	一	一五	一	一、六二〇
通州、海門地方	二五〇	—	—	—	二	九	二六一	—	—	—
泰縣及び泰興縣	一〇	—	—	—	—	—	一四	—	—	—
邵伯、靖江、宿遷、海州	二七	—	三	—	二	三	四五	—	—	—
南部江蘇										
南京市	八二〇	一、一五〇	五〇	四五	二七〇	三七五	六五	一五	一、一〇五	一、五八五
南京の未登錄軍用車	一	五五〇	—	—	—	—	—	五〇	—	六〇〇
鎭江及びその附近	三三九	—	三七	—	一八	—	六	—	四〇〇	—
上海地方										
支那人側市行政區	四七	三	五一	一〇七	二九（註一）	二六（註二）	一六	一六	一五三	一六一
フランス租界	（註一）三、四七五	（註一）三、八四九	三六	三六	一、四三〇（註一）	八六六（註二）	一四九	一一七	六、三六五	四、八六八
共同租界	（註一）六、三九五	（註一）六、一六二	一六四	二一〇	一、八三（註一）	一、八一五	七八二	八〇四	九、一六四（註二）	八、九〇一
未登錄の軍事用自動車	三三	五〇	—	—	二〇〇	二五〇	五〇	五〇	二八三	二五〇
廣西省	二七	七七	七九	八七	三四	一四	四	七	二三四	一八五
關東州租借地										
大連市	五七	—	六九	—	二〇八	—	二二〇	—	—	—
その他の地域	二三三	七二三	三	六七	一、六九	三三〇	三五五	四七五	一、六〇四	一、六〇五
未登錄軍事用トラック	—	—	—	—	一、〇〇〇	—	—	—	一、〇〇〇	—

| | | |

濟南治外法權區域	一九九	一九一	二〇九	二五七	一四六	二三	六	六	四六〇	四七七
青島治外法權區域	六五一	六〇〇	一〇四	一〇二	一四二	二二八	二二	九五	一、〇〇九	九二五
威海衛地方	一六	芝罘參照	三〇	芝罘參照	—	—	三	—	四九	—
陝西省	二	二四	一八八	一九九	バス中に包含さる		—	二	一九〇	二三五
新疆省	一〇	一	—	—	四〇	四三	—	—	五〇	四四
綏遠省	一五	—	二七	—	二	—	—	—	五三	—
西包頭	—	一	—	三	—	—	—	—	—	一三
歸化	—	三	—	三	—	—	—	—	—	六
他の地方	—	六六	—	八〇	—	—	—	—	一四六	
四川省	一六四	一五一	二八二	一七〇	一五	七八	一七	一五	四七八	四一四
雲南省	九	八	八	八	二〇	二五	五	三	四二	四四
雲南府	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その外部の地域	五	—	九	—	七	—	—	—	二	—
總計	二七、四七三	二七、三五〇	五、一九〇	五、八九四	八、九三九	八、二五九	二、八六〇	二、七五一	四四、四六二	四四、二五四

（註一）重複して登錄されたる若干の場合を除く。

（註二）合計二百八十三の陸軍並に海軍用車輛が共同租界に於て運轉されてゐる。分類に關しては詳細なる資料を入手し得なかつたので、その數字は任意的に見積つたものである。

（第三表）七省に於ける各省間道路建設費

省名	建設さるべき道路延長（單位粁）	建設費見積（土工作業を除く）（單位弗）	全國經濟委員會の支出額（單位弗）
江蘇	三四九	一、八七二、四〇〇	六二一、〇〇〇

浙江	七九八	四、二二九、〇〇〇	一、二五八、〇〇〇
安徽	四一四	一、七〇五、六〇〇	四八七、二〇〇
江西	一、三九九	二、八三一、九〇〇	九六二、八〇〇
湖北	五九四	二、三七〇、九〇〇	八八八、四〇〇
湖南	三〇三	一、〇七四、九〇〇	四三〇、〇〇〇
河南	三八四	一、三九六、四〇〇	四三八、六〇〇
豫備金	—	—	四一四、〇〇〇
總計	四、二四一	一五、四八一、一〇〇	五、五〇〇、〇〇〇

（第四表）他の省に於ける各省間道路建設費見積

線路	區間	延長距離（單位粁）	工事摘要	粁當りの工事費（單位弗）	建設費見積（土工事費を除く）（單位弗）	全國經濟委員會の賦與せる資金總額（單位弗）
南平—江山	*南平—楓嶺	二三四	地上工事、橋梁及び地下溝	三、六〇〇	八四二、四〇〇	三三七、〇〇〇
麗水—建甌	*建甌—八都	一三七	右ニ同ジ	三、六〇〇	四九三、二〇〇	一九七、三〇〇
南平—長汀	南平—長汀	三一〇	右ニ同ジ	三、六〇〇	一、一五二、〇〇〇	四六〇、八〇〇
豫備金	—	—	—	—	—	三〇四、八〇〇
總計	—	六九一	—	—	二、四八七、六〇〇	一、三〇〇、〇〇〇

*記を附したる線の浙江に於ける區間の建設費見積高は第三表中に包含さる。

（第五表）西北諸省に於ける主要道路の建設費見積

線路	區間	延長距離（單位粁）	工事摘要	粁當りに就いての建設費（單位弗）	建設費總計（單位弗）
西安—蘭州	西安—蘭州	七八〇	改修工事	五〇〇弗	三九〇、〇〇〇

蘭州—肅州	肅州—古浪	二〇〇	地上工事、橋梁及び地下溝	一、五〇〇弗	三〇〇、〇〇〇
西安—漢中	西安—齊家寨	一五〇	地上工事、橋梁及び地下溝並にその他改修工事	八〇〇	一二〇、〇〇〇
	齊家寨—漢中	三〇〇		二、五〇〇	七五〇、〇〇〇
總計		一、四三〇	—	—	一、五六〇、〇〇〇

（第六表）一九三四年度の主要道路面改修費見積

道路名	區間	延長（粁）	改修見積高（單位弗）	全國經濟委員會の賦與すべき資金（單位弗）
南京—杭州	句容—溧陽	一〇五	一一三、九三〇	五〇、〇〇〇
	宜興—東塘	四六	二二〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
上海—杭州	閔行—金四娘橋	二一	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
	金四娘橋—乍浦	一七二	四三三、九三〇	二〇〇、〇〇〇
總計		—		

（完）

新興都市延岡を語る

藤田宗光

停車場と廣場
延岡と天然公園
延岡と化學工業

都市改造の必要
驛前廣場の實現

紹介